大学初修中国語ブレンディッドラーニング用教科書による実践

Practice by the Textbook for Blended Learning for Chinese Beginner's Course in University

趙 秀敏[*1], 冨田 昇[*2], 今野 文子[*3], 朱 嘉琪[*3], 稲垣 忠[*2], 大河 雄一[*1], 三石 大[*4]
Xiumin ZHAO[*1], Noboru TOMITA[*2], Fumiko KONNO[*3], Jiaqi ZHU[*3], Tadashi INAGAKI[*2], Yuichi OHKAWA[*1], Takashi MITSUISHI[*4]
[*1] 東北大学大学院教育情報学研究部
[*1]Graduate School of Educational Informatics Research Division, Tohoku University
[*2] 東北学院大学
[*2]Tohoku Gakuin University
[*3] 東北大学高等教育開発推進センター・大学教育支援センター
[*3]Center for professional development, Center for the Advancement of Higher Education, Tohoku University
[*4] 東北大学教育情報基盤センター
[*4]Center for Information Technology in Education, Tohoku University
Email: zhaoxm@ei.tohoku.ac.jp

あらまし:我々は,大学の初修中国語学習における効果的なブレンディッドラーニングを実現するために,ブレンディッドラーニング用教科書を開発,出版した.今回,これを利用して二つの大学の実授業を対象とした通年に渡る実践を行った結果,いずれにおいても,本教科書による学習意欲の向上と一定の学習到達度が確認されたが,授業の実施形態の違いにより,自習の促進効果が異なることも確認された.
キーワード:大学初修中国語,ブレンディッドラーニング,教科書,インストラクショナルデザイン

1. はじめに

第二外国語としての初修中国語は,言語学的特徴や授業時間数の制約などにより,授業後の自習が不可欠であるが,近年の日本の大学では,学習意欲の低下や授業外の学習不足といった問題が顕著となっている.こうした問題を解決するために,我々は,通常の対面授業と授業後の e ラーニングを組み合わせたブレンディッドラーニング(Blended Learning;以下 BL)に着目し,ID 理論に基づき,BL による 3 段階学習プロセス,ならびに BL 用 e ラーニング教材の動機づけ設計指針を提案するとともに(1)(2),これに基づき,BL 用教科書『中国語の ToBiRa』(以下:『ToBiRa』)を開発,出版した(3)(4).本稿では,同教科書による二つの大学の実授業を対象に行った通年に渡る実践とその結果を報告する.

2. 初修中国語 BL 用教科書『ToBiRa』

『ToBiRa』は,大学における第二外国語初修中国語用教科書として,週 1 コマ,全 30 回の授業に対応する構成となっている.ここでは,我々が提案する 3 段階学習プロセスに基づき,コミュニケーション能力の育成を目指しながら,体系的な学習内容を提供できるよう,対面授業用テキストや DVD 映像,授業後復習用 e ラーニング教材(学習管理システム Moodle により提供・管理可能),次回の授業用テスト・発展学習など,複数の教材を用意した.また,復習用 e ラーニング教材では,学習者の学習意欲をより高めるために,同様に我々が提案する e ラーニング教材設計指針に基づき,動機づけ設計を行った.

これにより,学習者に対しては,学習意欲の向上,自習の促進,学習効果の向上が期待される学習環境を提供し,担当教員に対しても,学習管理をはじめ BL の実施を支援することを目指している.

3. 『ToBiRa』による授業の実践

3.1 対象授業

今回の実践は,2013 年度初修中国語授業として,M 大学(以下:M 大)で開講される週 2 コマのうち第一著者が 1 コマ分担当する授業,および T 大学文学部(以下:T 大文学)で開講される週 1 コマで第二著者が担当する授業を対象とした.なお,今回,M 大における対象授業は,受講者は 4 学科の学習者から構成され,前期は 25 名,後期は前期の受講者から 3 名減少した 22 名であった.また T 大文学の対象授業も前期が 25 名,後期は 22 名に減少した.

3.2 実践の概要

今回の実践では,第一著者は,M 大で『ToBiRa』を用いて提案 3 段階学習プロセスによる BL を実施した.ここでは,学習管理システムを使用し,e ラーニングを利用した復習状況を記録し,その結果を成績に反映させるとともに,授業の冒頭に実施する確認テストも成績評価の対象とした.

一方,第二著者は,T 大文学で『ToBiRa』を用いて非提案 BL を実施する.ここでは,学習管理システムは使用せず,e ラーニング利用の復習を学習者の任意とするとともに,確認テストも実施しない.

3.3 結果と考察

まず,復習状況について,M 大では,前期後期を

通じてほとんどの学習者が復習を行っていたが，締切内の実施率は，概ね 5 割以下で推移している（表 1）．一方，T 大文学では，復習用 e ラーニング教材を利用した学習者は，前期では受講者全体の 5 割半ば，後期は 7 割強に増え，かつその中の一部の学習者は，試験前の準備だけではなく，普段より自発的に利用していたことが確認された（表 2）．

また，定期試験結果を見ると，前期では，M 大と T 大文学の平均点は，それぞれ 75.2 と 60.3 であり，15 点ほどの差がある．それに対し，後期では，それぞれの平均点は 73.4 と 66.2 となっており，その差が 7 点に縮小したことが確認できる（表 3）．

さらに，アンケート結果からは，両大いずれにおいても，授業用テキストに対する学習者の肯定的な評価がうかがえるとともに，6～7 割の学習者が e ラーニング教材を利用して継続的・意欲的に復習できたとし（図 1），多くの学習者が「勉強しやすい」「非常に役に立った」「効率的に，楽しんで復習できた」「学ぶ意欲がわいた」といった感想を記していた．しかしながら，一部の学習者が PC 利用の Web 教材を面倒に感じていることも確認された．

以上の結果から，『ToBiRa』を用いて，提案 3 段階学習プロセスによる BL を実施した M 大においては，学習意欲を高め，自習を促進し，一定の学習到達度が認められたと考える．また，非提案 BL を実施した T 大文学においても，e ラーニングの利用を学習者の任意としたにもかかわらず，一部学習者が積極的に e ラーニングに取り組み，また，全体的に『ToBiRa』のテキストと e ラーニング教材に対する評価が高いなど，週 1 コマ授業という制約の中で，次第に学習者の学習意欲と学習効果が向上したことが推察される．

4. まとめ

本稿では，我々が開発した初修中国語 BL 用教科書『ToBiRa』の実践，およびその結果について報告した．今後，他の教員を含め，更なる実証実験を重ね，有効性の検証，改善を行う予定である．

参考文献

(1) 趙秀敏，今野文子，朱嘉琪，稲垣忠，大河雄一，三石大：“第二外国語としての中国語学習のためのブレンディッドラーニングの開発と実践”，教育システム情報学会誌，Vol. 29, No. 1, pp.49-62（2012）
(2) 趙秀敏，冨田昇，今野文子，朱嘉琪，稲垣忠，大河雄一，三石大：“第二外国語としての中国語学習のためのブレンディッドラーニングにおける e ラーニング教材設計指針の作成と実践”，教育システム情報学会誌，Vol. 31, No. 1, pp.132-146（2014）
(3) 趙秀敏，冨田昇，今野文子，朱嘉琪，稲垣忠，大河雄一，三石大：“大学初級中国語を対象とした 3 段階ブレンディッドラーニングのための教科書の開発”，教育システム情報学会研究報告，Vol. 28, No. 3, pp.75-80（2013）
(4) 趙秀敏，冨田昇：“中国語の ToBiRa（トビラ）：スマート e ラーニング対応教材”，朝日出版社，東京（2013）

表 1　M 大：復習実施状況（学習履歴により確認）

授業回(第～回)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
前期	実施者数			25	25	25	24	25	25	25	25		24	23	23
(*N*=25)	締切内			20	—	19	12	13	13	22	12		12	10	18
後期	実施者数	22	22	22	22	22	22	21	20		19	19	19	19	
(*N*=22)	締切内	8	10	13	9	10	7	18	8		6	4	10	19	

斜線は，e ラーニング復習課題を課さなかった授業回を示す．また，前期の第 4 回は，記録が未保存．

表 2　T 大文学：復習用 e ラーニング教材の利用状況

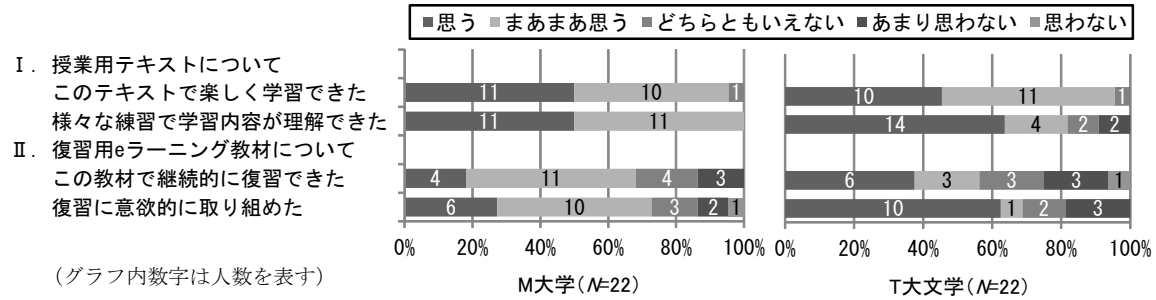
	利用者数	個人ペースの自習	授業後の復習	試験前の準備
前期(*N*=25)	14	1	4	14
後期(*N*=22)	16	2	3	16

アンケートにより確認．なお，利用形式に関しては複数選択可．

表 3　定期試験結果（*m*：平均，*SD*：標準偏差）

	M 大(*N*=24※, 22)		T 大文学(*N*=25, 22)	
定期試験	*m*	*SD*	*m*	*SD*
前期：発音&ユニット 1	75.2	17.1	60.3	15.4
後期：ユニット 2	73.4	18.0	66.2	19.3

※）M 大前期授業受講者 25 名のうち 24 名が受験した．



（グラフ内数字は人数を表す）

図 1　学習者の感想